

おじやりやれ

季刊誌：春・夏・秋・冬 発行 VOL.2



おじやれハウス利用者募集中です！

おじやれハウスは古民家風の一軒家です。
間取りは1LDKで家具・備品は備えています。
詳しくはHPを参照ください！

「おじやれハウス」ご利用条件！

期間：1週間以内

料金：無料 ※ただしレンタカー（1日¥6,000）をお借り頂きます。
より現実的な島暮らしに向けご理解ご協力を宜しくお願い致します。

場所：100-1511 東京都八丈島八丈町三根 1750-9

人数：最大4名様

要件：移住希望者のみ（これ大切です!!!）

施設の目的上、八丈島への移住を希望・検討される方に限ります。

観光目的でのご利用はできません。

当施設をご利用される方にはアンケート等のご協力をお願いしています。



八丈島移住定住促進協議会とは

1, 設立までの経緯

「島の定住人口・経済活動等多くの分野がしぼみ気味だ。行政と協力し住民の側から島づくりの活動団体が必要では」との意見が起こり、町と協力して1年間学び合い 2020年2月に設立。

2, 設立後の活動

移住希望者に島を体験し理解を深めて貰う目的で、自由に島暮らし体験をして貰う施設『おじやれハウス』を開設。私達が受け入れ先を持つことで移住希望者のより良きサポートを目指します。

3, 現在準備を進めている活動

☆島内の空き家は膨大な数で実態把握が不十分。町と調査を行い、空き家活用を進めます。

☆移住希望者総合相談窓口がありません。町と共に官民共同窓口の開設を目指します。

☆社会的活動及び市民の権利の向上、行政事業の受託拡大や政策的繋がりを広げていく為、今年中の法人化を目指します。

4, 近い将来に向け実現したい活動

☆移住の相談や手続き、地域活動への参加へのサポート。多様な移住活動組織を目指します。

☆移住者への古民家紹介、リホーム、休耕地情報提供及び島内企業等への就業斡旋など、島内関連団体とも連携共働した事業を創出します。

☆空き家バンクの活用、空き家所有者との連携も図った事業を考えます。

☆積極的な活動の効率化向上の為、事務所開所と事務員常駐を目指します。

八丈島移住定住促進協議会のホームページ

HP: <https://hachijoiju.com/>



会員も募集中です！

【ご意見・ご希望やご連絡等は下記へお願いします】

※「私の提案書」様式を作り提案を大歓迎しています。今後とも本会の活性化と活動がマンネリ化しないように新鮮な息吹をご提供くださるようよろしくお願いいたします。

連絡先住所：〒100-1401 八丈町大賀郷2478

電話番号：070-8310-7405

mail: 8joiju@gmail.com

※移住協は全員ボランティアのため専任事務員がいません。不在の時はご容赦ください。

（不在の際は、会長 内山江差夫 TEL:090-5791-1427 mail:hachi2004esao@yahoo.co.jp までご連絡願います。）



2021 春号

◆おじやれハウスにて 島暮らしを体験していただきました！

◆季節の紹介

◆知っておいてほしい八丈島の現状

◆おじやれハウス利用者募集中

◆設立までの経緯と今後の活動

おじゃれハウスにて 島暮らしを体験していただきました！

おじゃれハウスとは、移住希望の方の「プレ移住先」として八丈島の生活を体験できる施設です。一棟貸ですのでご家族での移住体験も可能です。ぜひ太平洋の島の生活を体験してみませんか？



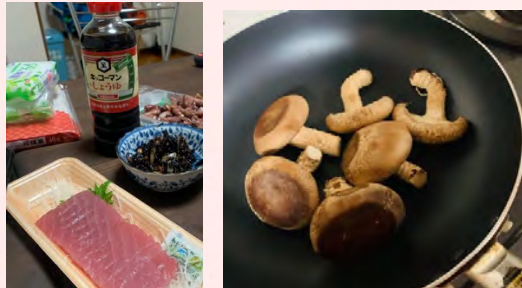
体験者の声 T 夫妻



八丈島へはダイバーシティ関係のイベントで毎年秋に来島していたそうです。二人の出会いもこのイベントだったため、「八丈島はとても大切な場所です。」と嬉しいお言葉を頂きました。



「島暮らし体験施設 おじゃれハウス」に2021年2月中旬に滞在させていただきました。シニア新婚カップルです♪独特な自然が身近にある環境と、町のあたたかさに触れ、いつか住んでみたいとは思っていましたが、昨年末に突然夫が『八丈島で仕事しようかな。』とつぶやきはじめ、私が在宅勤務になっていることもあり、ひょっとして可能かも！と物件を探し始めたところでおじゃれハウスのことを知りました。実際に住んでみたらどうなのか、何が違うのか、引っ越しはどうしたらよいか。。。情報を集める中で、この体験ハウスに住んでみる、ということができたのは本当によかったです。家は古いですが、昭和な私たちにはどこか懐かしい！テレビやエアコン、電子レンジ、食器類など必要なものは備えてありほんとうに暮らしている感覚を味わえます。



食事は主にテイクアウトやスーパーでお買い物

島に住む以上知っておくべき、冬にも家に出てくる蟻との生活も体験できました。

冬場だからか食べ物やゴミによってくることはなく、水回りに少し出てきたくらいで生活に支障はなかったです。移住を考えていることを島の友人、知人に伝えるとみんな全力で応援してくれます。

夜は温泉に行ったり、足湯に浸かってクジラをみたり、青く澄んだ海の色をずっと眺めたり。静かで真っ暗な小道を歩きながら夜空を見上げたり。この環境が日常になる素晴らしさを想うとワクワクします。

移住協のみなさんは私たちが快適に過ごせるよう、またスムーズに移住ができるようとても気を配ってくださいました。島の出身だからわかること、移住してきたからこそわかること、どちらもアドバイスしていただけて心強い存在です。家探しは粘り強く続けるとよい出会いがあるようです。実現に向けてあと少しがんばります♪

その後、T夫妻は「おじゃれハウス」での体験を活かし、5月から八丈町民としての生活をスタートして下さるようになりました！島の皆様、T夫妻共に宜しく願い致します！！



夫妻特性
八丈海風椎茸焼
八丈フルーツレモン添え

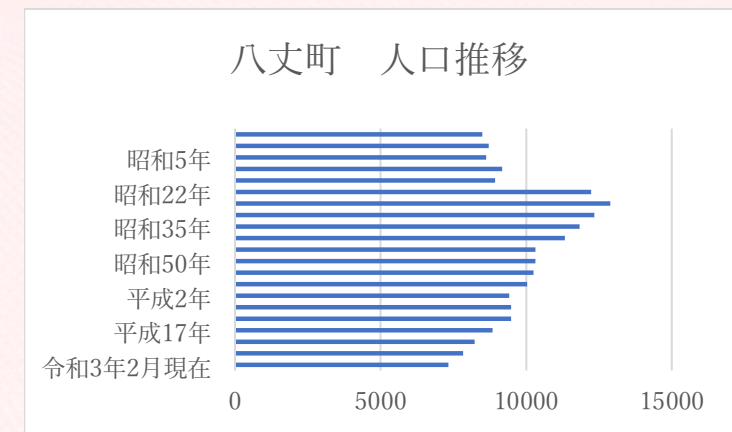


おじゃれハウスにWi-Fi環境はないので、底土港のガラス張りの待合室で海を見ながらの作業



知っておいてほしい八丈島の現状

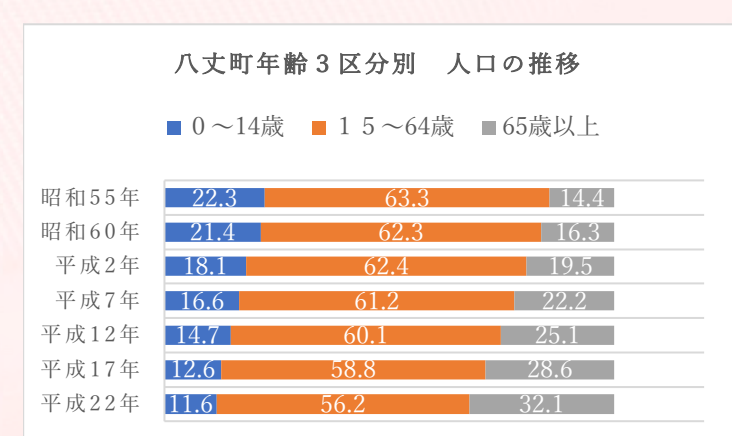
| 年号 | 人口 | 年号 | 人口 |
|-------|--------|----------|--------|
| 大正9年 | 8,492 | 昭和50年 | 10,318 |
| 大正14年 | 8,707 | 昭和55年 | 10,244 |
| 昭和5年 | 8,626 | 昭和60年 | 10,024 |
| 昭和10年 | 9,170 | 平成2年 | 9,420 |
| 昭和15年 | 8,939 | 平成7年 | 9,476 |
| 昭和22年 | 12,218 | 平成12年 | 9,488 |
| 昭和25年 | 12,887 | 平成17年 | 8,837 |
| 昭和30年 | 12,344 | 平成22年 | 8,231 |
| 昭和35年 | 11,818 | 平成27年 | 7,812 |
| 昭和40年 | 11,315 | 令和3年2月現在 | 7,321 |
| 昭和45年 | 10,316 | | |



表・グラフは「八丈町人口ビジョン」(総務省 国勢調査)・「広報はちじょう」を元に浅沼が作成

| 年次 | 総数 | | (0~14歳) | | (15~64歳) | | (65歳以上) | |
|-------|--------|--------|---------|--------|----------|--------|---------|--------|
| | 実数(人) | 構成比(%) | 実数(人) | 構成比(%) | 実数(人) | 構成比(%) | 実数(人) | 構成比(%) |
| 昭和55年 | 10,244 | 100.0 | 2,289 | 22.3 | 6,483 | 63.3 | 1,472 | 14.4 |
| 昭和60年 | 10,024 | 100.0 | 2,144 | 21.4 | 6,243 | 62.3 | 1,637 | 16.3 |
| 平成2年 | 9,420 | 100.0 | 1,701 | 18.1 | 5,881 | 62.4 | 1,838 | 19.5 |
| 平成7年 | 9,476 | 100.0 | 1,576 | 16.6 | 5,799 | 61.2 | 2,101 | 22.2 |
| 平成12年 | 9,488 | 100.0 | 1,399 | 14.7 | 5,704 | 60.1 | 2,385 | 25.1 |
| 平成17年 | 8,837 | 100.0 | 1,115 | 12.6 | 5,194 | 58.8 | 2,524 | 28.6 |
| 平成22年 | 8,231 | 100.0 | 957 | 11.6 | 4,629 | 56.2 | 2,643 | 32.1 |

※総数は平成17年に4人、平成22年に2人の「不詳人口」を含んでいます。



※「不詳人口」は割合が少ない為省略します。

表・グラフは「八丈町人口ビジョン」(総務省 国勢調査)を元に浅沼が作成

八丈島の人口は昭和25年をピークに一貫して減少傾向で推移しています。ピーク時には約13,000人いた人口も平成2年には1万人を切り、現在は7,300人ほどとなっています。八丈島は昭和55年の時点ですでに※「高齢化社会」にあり、平成7年には※「超高齢化社会」に該当となります。

※「高齢化社会」とは高齢者(65歳以上)の割合が7%を超えている状態を言い、21%を越えた状態を「超高齢化社会」と言います。

日本は1,970年(昭和45年)に「高齢化社会」となり、2007年(平成19年)に「超高齢化社会」に突入しました。

<https://job-medley.com/tips/detail/904/>より参照